

令和2年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・**最終**)

川尻中学校区 校番 19 学校名 呉市立川尻中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
<p>***</p> <p>確かな学力</p>	<p>① 基礎学力の定着を図る</p>	<p>○家庭学習の習慣化</p> <p>○主体的な学びへの授業改善</p>	<p>・定期テスト(2学期中間・期末)の課題(宿題)提出状況は、3年生94.8%(1学期比+0.7)、2年生93.1%(同+3.5)、1年生86.7%(同-3.6)、平均91.5%(同-0.1)である。</p> <p>○2・3年生は進路に向けての意識の高まりもあり、提出率の向上が見られた。</p> <p>●1年生は課題への取組状況がそのまま成績の伸び悩みとつながっている。</p> <p>●新型コロナウイルスの影響により、グループやペアワークができない状況が続いている。</p>	<p>・生徒の実態に応じて、担任と保護者で連携をとり、個別に指導していきながら課題に取り組ませ、提出を促すようにする。また、毎週月曜日の川中タイムを活性化する。</p> <p>・授業の中で、生徒が主体的に考えていけるよう授業改善を行う。</p>
<p>**</p> <p>豊かな心・健やかな体</p>	<p>② 自己指導能力を育成する</p> <p>③ 健康的な生活習慣の確立と体力向上を図る</p>	<p>○生活規律・学習規律の定着</p> <p>○夢や目標への挑戦と自尊感情の向上</p> <p>○食育の推進と体力向上</p>	<p>○授業や部活動でおおむね4動作の挨拶を行っている。 (1年89% 2年86% 3年100%)</p> <p>○自ら進んで掃除をする生徒の割合は95%で、目標値である90%を上回っている。 (1年94% 2年94% 3年94%)</p> <p>○夢や目標を持っている生徒の割合が全体で88%と目標値を達成している。上半期数値が低かった2年生もキャリア教育を進めていく中で数値が改善された。 (1年83% 2年92% 3年92%)</p> <p>○校内ボランティアを下半期で2回実施。年間3回の実施で目標値は30回に対して3回の9%。</p> <p>○新体カテストの結果県平均以上の種目60%に対し67%と目標値を達成した。昨年度と比較しても記録が向上している。</p> <p>○2年生は、教室が3階にあり、配膳室まで距離があり、配膳に時間がかかる。生徒の早く配膳しようという意識改革が必要であるとともに、4時間目授業者の協力が大切である。</p>	<p>・全体では目標値は達成しているが、1・2年生の数値は90%に届いていない。1・2年生生徒会中心に委員会や部長会で取組を進めていく。</p> <p>・前向きな声かけや肯定的評価をしていくことで生徒が自ら考えて意欲的に掃除に向き合い自主性が生まれるよう指導していく。</p> <p>・職業調べ学習や職場体験学習(今年度は中止)を発達段階に応じて進めていく。</p> <p>・伝統であるボランティアの機会が減少する中でも、生徒会中心にボランティアをしたいと声が上がっている。校内を中心に継続させていきたい。</p> <p>・保健体育科の授業効果が数値に表れている。さらに記録向上を維持するためには、生徒会と連携し、休憩時間に器具等の貸し出しを進めて、運動する機会を増やしたい。</p> <p>・2学年の配膳時の役割の徹底と保健委員の働きかけで補う。4時間目の授業者は時間を守る。</p>
<p>*</p> <p>信頼される学校</p>	<p>教職員が意欲と能力を発揮できる学校</p>	<p>○不祥事防止</p> <p>○生徒と向き合う時間の確保</p> <p>○長時間業務の削減</p>	<p>○月1回、管理職・主任による計画的な服務規律研修と記者発表資料等による注意喚起を直ちに行い、未然防止の意識を高める研修を継続して行うことができた。</p> <p>○生徒と向き合う時間が確保されたと感じる教員は89%で目標値は越えたが、前回の達成度100%より低下した。</p> <p>○9月～1月の期間、時間外勤務平均時間は32時間で、職場内で長時間勤務にならないよう、意識化、行動化が図られている。</p> <p>○月45時間を超える教職員数は、4～8月で7人、9月～1月で1人で減少した。</p>	<p>・計画的な服務規律研修と記者発表等資料による注意喚起を継続して行い、当事者意識と未然防止の意識を職場全体で醸成していく。</p> <p>・管理職、分掌間の連携を密にし、焦点化した取組を行う。</p> <p>・会議等の事前確認や情報共有による組織的な取組による問題の早期解決により、今後も生徒と向き合える時間を確保する。</p> <p>・中間期評価と同様、職場全体の時間外勤務時間の平均時間は45時間を大きく下回っているが、進路関係の時期になり3学年教員の勤務時間が増加している。再度、週1回の定時退校日の徹底を行う。また業務内容を確認し、分掌や学年で分担し合い、時間外勤務時間を減少させる。</p>